

事業所における自己評価結果(公表)

対象職員 5名 回収 5名
回収率100%

公表:令和2年3月1日

事業所名: コトノハ放課後等デイサービス

		チェック項目	はい	どちらでもない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	0	1	4	・一室での療育は限界があるため、別室を使って分散している。	・引き続き活動での分散を行い、各部屋で活動・課題が実施できるようにする。
	②	職員の配置数は適切である	0	1	4	・基準は満たしているが、運営上支障を伴う場合が多い為、生活介護職員にもヘルプで入って貰っている。	区分1の事業所として機能していくことができるように努める。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	1	1	3	・車椅子が必要な児に対しては、生活介護入口から出入りしてもらっている。	・引き続き、歩行が困難な児には生活介護入口より出入りして頂き、スムーズに利用できるように配慮する。
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	3	2	0	朝礼・終礼を実施し、日々の活動の振り返りを行っている。	
	⑤	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4	1	0	年に一回保護者向けの事業所評価を配布して、保護者の意向を聞き取っている。	
	⑥	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	0	0	集計後にホームページにて公表を行う。	
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	1	0	第三者評価を受けている。	
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	1	0	事業所内研修を実施している。	
	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	2	1	2	定期的なアセスメントは実施しているが、ツールがお子さんに見合ったものになっていない現状がある。	・アセスメントツールの見直しを行い、正しく利用児が評価できるように努める。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	2	1	2	アセスメントシートを使用している。	・アセスメントツールの見直しを行っていく
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っている	5	0	0	個別プログラムについて職員間で話している。	
適切な支援の提	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	1	0	朝礼や終礼等で活動プログラムについての振り返りを実施している。	
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	2	1	2	日によっては職員数が確保足りないことも有、生活介護から兼務職員を借りて運営を行っている。きめ細かに、と言う視点では不確実なこともある。課題は前日に準備をしたり、利用終了の翌日に職員で内容を検討したりして評価した後に再設定している。	・引き続き生活介護職員から兼務として入っていただき、安全に充実した運営ができるように配慮する。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	4	1	0	支援計画を基にプログラムを立案している。	
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	1	0	・朝礼を行い、情報共有、当日の運営についての打合せ、ケース検討等を実施している。	・どの職員が進めても情報共有を図ることができるようにフォーマット化していく。

供	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	2	0	・療育終了後は終礼を行い、当日の事故やヒヤリ、引継ぎ内容、特記事項等について共有を行っている。	・終礼の時間を要することで退社時間に影響するため10分間としている。今後も遵守し、定時退社ができるように務める。
	⑰	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	3	0	2	個別の記録を定期的に残すことは難しいが、その日に利用した児の特記事項については終礼記録に落とし込み、職員全体で周知できるようにしている。	今後も終礼記録を用いて情報共有を行い、児の特記事項を残していく。
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	3	2	0	半月毎のモニタリングは実施している	今後も規定のモニタリング日は遵守していく。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ、支援を行っているか	0	4	1		改めて基本活動についての職員間での理解を図り、組み立てを行っていく。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	0	0	児童発達管理責任者・キャップが中心となって参加している。	利用児の姿を全職員が伝えられることが利用であるため、正規職員にも参加の機会を促していく。
	㉑	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	2	3	0	送迎時や保護者からの聞き取りで連絡調整を行っている。	
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	0	0	0	医ケア児の受け入れは行っていない	
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	0	3	2	隣接する「児童発達支援センター倉敷学園」との情報共有は行っている。	保育園や幼稚園との情報共有は薄い。(そもそも支援学校の児中心に受け入れを行っているため入学前はセンター利用児が中心である)
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	1	3	1	移行支援会議について声がかかれれば参加をしている。	
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	4	0	センターが隣接されているため職員との連携は多い。	
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	0	1	4		障がいの無いお子さんとの関わりは行えていないことが現状である。法人内での活動等にも参加し、地域のお子さんとの関わりも行っていきたい。
	㉗	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0	3	2		
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	0	0	朝礼や終礼等で発達状況について共通理解を図っている。	
	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	2	0	3		法人として、ペアレントトレーニングは実施しているが、放課後等デイサービスの保護者の方の参加は無い。今後も参加を呼びかけていく。
保護者へ	⑳	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	2	3	0	契約時に説明を行っている。	
	㉑	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	2	3	0	引き継ぎ時に行っている。	引き継ぎ時間だけでは十分に時間の確保が難しいため、要望があれば懇談で対応する。
	㉒	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	0	2	主に父親が参加できる「おやじの会」へ参加を促し、飲み会を通して情報共有したり、法人主催のイベントで父親が中心となった活動を実施したりしている。	
	㉓	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	5	0	0	引き継ぎ時に職員が適切な対応を心がけている。	

説明責任等 非常時等の対応	③④	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	0	0	毎月「コトノハ放デイ通信」を発行し、日程や活動報告等の情報共有を行っている。	
	③⑤	個人情報の取扱いに十分注意している	4	1	0	個人データは家庭に持ち帰らない、業務終了後は利用児の個人特定されやすいもの（書類や写真等）は伏せて帰宅する等している。	
	③⑥	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	3	2	0	TEEACHの技法やPEGS等のツールを用いた支援を実施している。	
	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	2	2	法人行事である「クラコトフェスティバル」には地域住民を参加頂いている。	今後も法人主催の行事にコトノハを利用するお子さんも参加を促し、地域住民と交流を深めていく。
	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	2	3	0	各マニュアルは作成し、出入り口付近に設置している。災害訓練は、地震・火災・水害・防犯等に分かれてマニュアル化している。	災害時の事業所復旧や利用児・家庭への対応についてはBCPマニュアルを作成し、事業所に設置していく。
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	2	3	0	月に一回地震・火災・水害（津波）・不審者等を想定した避難訓練を実施している。	
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	3	1	1	年度始め・年度途中に人権に関する研修会を法人全体で実施している。	
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	2	1	1	現在身体拘束を行う児はいない。	
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	1	0	医師の診断書を頂き、アレルギー食の提供を行っている。	
④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	3	1	1	ヒヤリハット・事故記録を集計し、事業所内で回覧している。		

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。